昭和21年5月22日第3種郵便物認可　（毎週火曜日発行）　月ぎめ定価3,960円（本体価格3,600円＋消費税360円）

活字文化をひらく―文化通信社

The Bunka News

2024年（令和6年）
7月2日
火曜日

おーい お茶

NEWS Pick Up

創刊145周年を記念
朝日会全国大会を開催　2面

あいさつする朝日新聞社・中村社長（当時）

オーディオブックAudible
聴取時間、会員数も増加　6面

記者発表会に登壇した永作博美さん（左）と湊かなえさん

オリジネーター・プロファイル
憲章制定、新たに4法人加入　5面

リレーコラム「縁尋機妙」
信濃毎日新聞社・山崎紀子さん　8面

株式会社　文化通信社
千代田区神田錦町3-7-2-3F ☎(03)5217-7730
http://www.bunkanews.jp/

購読ご案内
●購読お申し込み
文化通信社のホームページにアクセスしていただき、上部の「購読案内」をクリックし、「お申し込みフォーム」にお進みください。
※「試読紙」のお申し込みも受け付けております。
●お問い合わせ　電話＝03(5217)7730

デジタルサービス
●「デジタル版」(有料)
「リモートワーク」でもパソコンやスマートフォンなどでニュースやインタビューなどが読めます。
紙面イメージもそのまま見ることができます。
※利用料は月額3771円(税込み)
●有料記事データベース：「日経テレコン21」
●有料電子版サービス：「富士山マガジンサービス」「新聞オンライン.COM」

百五十年 since 1873
おかげさまで
創業150周年。
正田醤油株式会社

第4回「活字文化フォーラム」に登壇

書店問題は世界共通の課題

本と社会研究所（韓国）白源根代表に聞く

文化通信社主催の第4回「活字文化フォーラム」が7月25日、東京・台東区の東天紅上野本店で開催される。昨年の出版文化産業振興財団（JPIC）が実施した韓国視察で、アテンド役として同行した「本と社会研究所」白源根（ベク・ウォングン）代表による基調講演を皮切りに、同氏に加え、経済産業省内に大臣直轄の「書店振興プロジェクトチーム」を設置した齋藤健経産相、文字・活字文化推進機構理事長を務める読売新聞グループ本社・山口寿一社長といった活字文化の未来を占うキーマン3氏が「日本の書店政策」について議論を交わす。白氏にフォーラムで伝えたいこと、長年にわたり出版研究を追求するに至った経緯などを聞いた。【堀雅視】

書店支援は恩恵ではない

――基調講演、パネルディスカッションで伝えたいことは。

韓国での書店支援の在り方、なぜ書店に支援が必要なのか、支援は異質なことではなく国として当然の政策であるということを語りたい。

書店が抱える懸案は業界や一国だけの問題でなく、読書離れは国力低下につながる世界共通の課題です。今回のフォーラムのようにみんなで考える機会がもっと増えれば道は開けると信じて臨みたいと思います。

――韓国の書店支援が注目されています。

韓国では日本で言う「町の書店」のことを「地域書店」と呼びます。地域書店は特別に恩恵を受けているわけではなく、国民が本と身近に接する環境づくりは国として最低限の役割です。政治家や教育者が都合の良いときだけ「本は大切」と語り、そのための策を放置することは無責任極まりない。「読書は必要」と言うのなら市場性の弱い出版、書店、周辺の流通チャンネルの多様性を市場競争のみに任せてはいけません。

――手厳しい指摘です。

当然であるべき政策です。韓国は日本の消費税にあたる付加価値税が出版物においては10％から免除。今では電子書籍にまで適用されています。2002年に制定された「出版文化産業振興法」に、21年からは地域書店の実態調査（隔年）や活性化計画も盛り込まれました。公共図書館も地域書店から購買するよう強く推奨している。出版界への支援、国民が安価で本を購入できるという業界と消費者双方にメリットがある仕組みが構築されています。

――韓国の書店数は増加していると聞きます。

独立書店の数は増えています。15年以降、毎年100店近くが開業し、現在まで1100店以上がオープン。このうち2割が廃業しましたが、約900店は継続してがんばっています。

――これらの書店は利益を上げているのですか。

そう簡単な話ではありません。日本の書店の核となる商材は雑誌とコミックですが、韓国は学習参考書。日本と同じく少子化で学生の数が減り、安泰ではありません。学参を置けない小さな店はさらに厳しい。カフェなど他業種との複合店、人件費対策の無人書店、複数で運営する共有型書店も少しずつ増えています。

――前大統領の文在寅氏も昨年、書店をオープンしました。

文氏は読書家で知られ、印象に残った本は積極的にSNSで発信し、支持者も多いのでオープンからずっと賑わっています。彼は収益を地域書店に役立つ事業に還元しています。

大統領時代は政治的な面で日本には彼のアンチも少なくないでしょう。しかし、決して日本が嫌いなわけではなく、長い歴史や政治、周囲の意向などさまざまな側面が背景にあります。元弁護士でとても真面目で前向き、本を愛する人物です。

著名人PRも日韓で差

――韓国は著名人が推薦した本が大きく動くと聞きますが、日本では自著のPRが目立ちます。

韓国だけでなく、欧米でも有名人が「これは読むべき本だよ」と発信することは一般的です。

BTSや東方神起が推薦したエッセイが反響を呼び、韓国の文学作品が世界に広がりました。芸能も本も同じエンターテインメント。素晴らしい作品を積極的に発信することは表現者として役割の一つ。文化通信社が取り組む「こどものための100冊」や、ギフトブックキャンペーン「先輩の本棚」のように、日本の新聞やテレビはもっと「著名人の推薦本コーナー」などを設けるべきです。

――JPICの韓国視察では渉外と通訳として同行されました。

かつては韓国の出版関係者が日本の出版を学ぶためや、著作権ビジネス目的で例えば東京国際ブックフェアに数百人規模で来場しました。私も毎年参加していたのでブックフェアが開催されなくなったことは非常に残念です。これまで効率的な流通システムを構築したドイツが注目されましたが、日本の出版関係者が公式に韓国を視察するのは初めてではないでしょうか。小規模書店の厳しさは韓国も同じ。自分事として視察団を公共図書館や書店、書店組合、韓国出版文化産業振興院などに案内する重責を担いました。

（2面に続く）

ベク・ウォングン
（Photo by EuiJong Lee）

1967年全羅北道高敞郡出身。檀国大学国文学科、中央大学新聞放送大学院出版雑誌専攻および大学院博士課程（言論学専攻）修了。93年上智大学新聞学科・大学院研究課程修学。95年韓国出版研究所責任研究員、15年本と社会研究所設立。出版都市文化財団実行理事、京畿道の地域書店委員長、韓国出版学会の出版政策研究会長、ウェブマガジン「出版N」編集委員、ソウル図書館ネットワーク委員長、日本出版学会正会員など。

シンポジウム「世界の神保町をめざす―〝知のプラネタリウム〟の発信」

上川外相が基調報告
「神保町を世界に発信」

「出版の街」として知られている東京・神保町の可能性を発展的に見直し、日本の出版文化を世界にアピールしていく拠点としていく方策などを考えるシンポジウム「世界の神保町をめざす―〝知のプラネタリウム〟の発信」が6月26日、東京・千代田区の出版クラブビルで開かれた。冒頭、活字文化議員連盟会長の上川陽子外務大臣がビデオメッセージを寄せ、「世界に二つとない魅力的な神田神保町を、知のプラネタリウムとして世界に発信することを提案する」などと呼びかけた。

取り組みのスタートとなった今回のシンポジウムの主催は東京文化資源会議、共催は神保町文化発信会議（活字文化議員連盟、出版文化産業振興財団、東京文化資源会議、本の街・神保町を元気にする会、文字・活字文化推進機構、読売新聞社で構成）、活字文化推進会議、千代田区が後援した。

主催者あいさつに続き、上川氏がビデオメッセージで基調報告した。上川氏は昨年7月、文化通信社の第3回「活字文化フォーラム」に、読売新聞グループ本社の山口寿一社長とともに登壇。その中で、「神田神保町のような魅力ある街、時間をかけて作られてきたその財産、文化財をぜひ残したい。今回の件を絶好のチャンスと捉えて、神田神保町を国際的な活字文化の拠点にしていくことが可能ではないかと確信している」と語っていた。

上川氏は、「私にとって書店や図書館は、本との大切な出会いの場だ。外務大臣として海外出張した際、可能な限り現地の書店を訪問している」と明かした。

そのうえで、「日本の書店や書店街は、こうした日本文化や日本コンテンツの発信拠点として機能するとともに、私が海外の書店で日本の活字文化と出会ったように、さまざまな文化が行き交う国際的な文化交流拠点にもなりうる場所」と指摘。「文化外交を推進するうえでも、日本の書店街を国内のみならず、世界をターゲットとした文化の一大拠点として大切に育てていくことが大変重要だと、海外の書店訪問を通じて、あらためて強く感じた」と話した。

さらに、「私は手で触ることのできる、紙でできた本の将来について悲観していない」との考えを示し、「あらゆるものがデジタルに支配されようとしている無機質な社会空間から、一時的にせよ解き放たれたいという動物的欲求が、人間には本能的にあるのではないか。その人たちの受け皿として、本の持つ力が再認識される時代が間もなく来るのではないかと思う」と訴えた。

最後に、自民党の議員連盟「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」での取り組みや、会長を務める超党派の「活字文化議員連盟」で、「より具体的な課題の解決に向けて方策を検討するなど、勉強を重ねていきたい。その際、文字・活字文化推進機構などとの協力、連携を強化する可能性を検討していく」とした。

また、「政府の『骨太方針2024』に、書籍を含む文字活字文化の振興や、書店の活性化を図るという内容が盛り込まれた。まさに、神田神保町を知のプラネタリウムとして、世界の拠点とする絶好のチャンス到来だ」と強調した。

（上川氏の基調報告は有料のデジタル版で全文を読むことができます）

ビデオメッセージで基調報告する上川氏

メディア業界様へ
人材派遣　紹介型予定派遣　職業紹介
人材紹介
（出版社・印刷会社・広告会社・新聞社向け）
※当社スタッフは原則入社半年後に正社員登用しているため、「派遣3年の壁」対象外の無期雇用スタッフを派遣いたします。
Bridge 株式会社ブリッジ　営業担当 山本雅也・芳澤拓人
https://www.bridge-bs.co.jp/　TEL：03-5212-7442　MAIL：info@bridge-bs.co.jp

お知らせ

文化通信社は、「The Bunka News」デジタル版の試読キャンペーンを実施中です。期間中（2024年7月19日まで）にお申込みいただくと、申込日から8月末まで無料でご利用になれます。

申し込みはこちらから

TVアニメ2024年10月放送開始！
巫女×三姉妹×一つ屋根の下の
絶対正義ラブコメ!!
『五等分の花嫁』
『彼女、お借りします』
の週マガで今
最注目のラブコメディ!!
累計130万部突破！
週マガラブコメヒロイン総選挙で1位&2位を獲得！
甘神さんちの縁結び　内藤マーシー
KODANSHA